

平成23年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 | 2 | 6 | 9 | 2 2. 研究機関名 東京工科大学
3. 研究種目名 研究活動スタート支援 4. 研究期間 平成23年度～平成24年度
5. 課題番号 2 | 3 | 8 | 9 | 0 | 2 | 2 | 1
6. 研究課題名 肢体不自由児施設での性と生の教育プログラムの構築に関する研究

7. 研究代表者

| 研究者番号 | 研究代表者名 | 所属部局名 | 職名 |
|-------------------------------|-------------------|--------|----|
| 4 0 6 1 4 6 2 3 | テラモト マサエ 寺本 正恵 | 医療保健学部 | 助手 |

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

| 研究者番号 | 研究分担者名 | 所属研究機関名・部局名 | 職名 |
|-------|--------|-------------|----|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

肢体不自由児施設での性に関する先行研究は該当がなく、キーワードを肢体不自由児・発達障がい児・児童養護施設入所児それぞれに分けた文献を取り寄せ、熟読を行った。思春期学会・看護研究学会・看護科学学会等に参加し、現在行われている性教育関連の研究についての情報収集を行い、研究協力者である小児看護学 木内妙子教授より、小児を取巻く社会的現状や課題についてご教授頂いた。

研究フィールドであるA肢体不自由児施設には、非常勤講師として出向き、施設職員と共に入所児の性に関する実態について把握を行った。具体的には、①施設で生じている性（生）の問題事例についてディスカッション、②A施設入所児童の入浴時・排泄時・更衣時でのセルフケア評価、③対象児のシート作成及び、身体障がい・知的レベル・養育環境等の情報整理、以上3点である。

これらの研究活動を通し、肢体不自由・精神発達障がい・被虐待児の性（生）の現状および、A施設に入所する児童の性（生）課題を他職種との合意の上、明らかにした。

施設の倫理委員会承認を経て、言語的コミュニケーションの取れる学童期～思春期の入所児童13名と面談を実施し、性に関する思いや要望について施設職員と共に聞き取りを行った。その上で、平成22年から実施している「性教育ミニ講座」を継続した。内容は、①二次性徴における体と心の変化、②プライベートゾーン・プライベートエリア、③命の始まりから誕生、④性感染症・妊娠・デートDVである。その内容を季刊SEXUALITY（エイデル研究所出版）に掲載し、性教育ミニ講座を受けた子ども達の感想をまとめ、第56回全国肢体不自由児療育研究大会で発表を行い、他施設との情報交換を行った。

今年度の研究活動により、1施設ではあるが肢体不自由児施設で暮らす児童の性の現状、及び作成した性教育における気持ちの変化や課題が明らかになった。

10. キーワード

- (1) 肢体不自由 (2) 精神発達遅滞 (3) 被措置児童 (4) 性と生の教育
 (5) セルフケア (6) (7) (8)

11. 現在までの達成度

下欄には、交付申請書に記載した「研究の目的」の達成度について、以下の区分により自己点検による評価を行い、その理由を簡潔に記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。
 <区分>①当初の計画以上に進展している。 ②おおむね順調に進展している。 ③やや遅れている。 ④遅れている。

| |
|--|
| (区分) ② |
| (理由) 文献検討やフィールドでの活動を通し、肢体不自由児施設での教育の実際と課題を明らかにすることができたが、学際的な分析や明らかにされた課題より、介入すべき要素の抽出などにはまだ至っておらず、今後の課題とする。 |

12. 今後の研究の推進方策

本研究課題の今後の推進方策について簡潔に記述すること。研究計画の変更あるいは研究を遂行する上での問題点があれば、その対応策なども記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

| |
|---|
| 平成 23 年度に研究活動で得た、肢体不自由児施設での教育の実際と課題を学際的に分析し、その中で抽出された介入すべき要素を基に性教育プログラムを作成する。 |
|---|

13. 研究発表（平成 23 年度の研究成果）

※ 「13. 研究発表」欄及び「14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況」欄において記入欄が不足する場合には、適宜記入欄を挿入し、それによりページ数が増加した場合は、左端を糊付けすること。

〔雑誌論文〕 計 (0) 件 うち査読付論文 計 (0) 件

| 著者名 | 論文標題 | | | |
|---------------------------|-------|---|-----|---------|
| | | | | |
| 雑誌名 | 査読の有無 | 巻 | 発行年 | 最初と最後の頁 |
| | | | | |
| 掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子) | | | | |
| | | | | |

| 著者名 | 論文標題 | | | |
|---------------------------|-------|---|-----|---------|
| | | | | |
| 雑誌名 | 査読の有無 | 巻 | 発行年 | 最初と最後の頁 |
| | | | | |
| 掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子) | | | | |
| | | | | |

| 著者名 | 論文標題 | | | |
|---------------------------|-------|---|-----|---------|
| | | | | |
| 雑誌名 | 査読の有無 | 巻 | 発行年 | 最初と最後の頁 |
| | | | | |
| 掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子) | | | | |
| | | | | |

【学会発表】計 (1) 件 うち招待講演 計 (0) 件

| | | |
|---------------------|---|-------------------|
| 発表者名 | 発表標題 | |
| 寺本 正恵 | 肢体不自由児での「性と生の教室」の取り組み ～学童期・思春期の長期入園児を対象とした性教育後の気持ちの変化～ | |
| 学会等名 | 発表年月日 | 発表場所 |
| 第56回 全国肢体不自由児療育研究大会 | 平成23年10月20日 | テトリア熊本ビル (熊本県) |

【図書】計 (1) 件

| | | | |
|---------------------------------|---------|--------|--|
| 著者名 | 出版社 | | |
| 金子由美子 (他) | エイデル研究所 | | |
| 書名 | 発行年 | 総ページ数 | |
| 季刊SEXUALITY No53 子どもの権利条約と子どもの性 | 2011 | 94-101 | |

14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

【出願】計 (0) 件

| 産業財産権の名称 | 発明者 | 権利者 | 産業財産権の種類、番号 | 出願年月日 | 国内・外国の別 |
|----------|-----|-----|-------------|-------|---------|
| | | | | | |

【取得】計 (0) 件

| 産業財産権の名称 | 発明者 | 権利者 | 産業財産権の種類、番号 | 取得年月日 | 国内・外国の別 |
|----------|-----|-----|-------------|-------|---------|
| | | | | 出願年月日 | |
| | | | | | |

15. 備考

※ 研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

| |
|--|
| |
|--|